

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101861		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	今泉ケアセンターそよ風		
所在地	栃木県 宇都宮市中今泉4丁目22番1号 電話:028-613-5781		
自己評価作成日	令和 2年 9月 9日	評価結果市町村受理日	令和 2年12月18日

※事業所の基本情報は

基本情報	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル		
訪問調査日	令和 2年10月12日	評価確定(合意)日	令和 2年11月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月ご家族様に向け、前月の利用者様の様子を伝える手紙と日常やイベントの写真がいつぱいのそよ風だよりを郵送しています。
 コロナの影響で外出は出来ていませんが、毎月利用者様と一緒にを行う料理教室や誕生会、季節の行事に力を入れています。
 毎月利用者様一人一人「個人目標」を設定し、運動や家事手伝い等継続できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階のデイサービスと併設で2階にある平成14年開設の2ユニットの事業所です。『「人権尊重」を基本方針として「楽しい・嬉しい・ほっとする」そんな当たり前の感情を持てる時間を大切に考え、安全に活きいきと生活できるように』を理念としており、適時適切な声掛けと傾聴の姿勢に徹した支援で不安解消に努め、穏やかな表情や笑顔からも支援の成果が窺える。運営推進会議は自治会長、民生委員、地域包括職員が委員で利用者も出席して定期開催している。月2回の定期訪問診療、及び必要に応じて随時の診療が可能なクリニックによる健康管理に加え、訪問診療医との連携でこの1年で3件の看取りも行い本人、家族の安心を大切に寄り添った支援にも努めている。行事写真満載の広報誌「そよかぜ」と職員手書きの報告書を毎月送付したり、最近ではラインでのビデオ通話を家族からの要望で取り入れ、予約制で実施しており、利用者の生活の様子が分かり家族から喜ばれている。併設の事業所と協力して地域の高齢者の介護に努めている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) (スミレユニット) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (スマレユニット)		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で毎日唱和し、意識付け共有している。	「楽しい・嬉しい・ほっとする」そんな当たり前の感情を持てる時間を大切に考え、安全に生きいきと生活できるように支援するを理念に掲げている。利用者一人ひとりへの適時適切な声掛けと傾聴の姿勢に徹した支援を共有し、側を通る時には必ず一声かけるなど不安解消を図りながら、思いの把握にも努め実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で参加できていないが、地域のサロンになるべく参加できるようにしている。	自治会に加入しているが回覧は回ってこない。地域情報は民生委員や自治会長よりを得ている。自治会の地域サロンに利用者と参加したり、小学校の運動会に招待されたり、幼稚園児の年数回の訪問などは利用者の楽しみになっている。現在はコロナの影響で殆ど交流できていない。	事業所行事への地域住民の参加が長年途絶えています。自治会組織の活用や近所へのポスティングなどで広報活動に努め、事業所の思いを地域に向けて繰り返し積極的に発信することに期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治会長に、サロンで地域の方にご理解いただけるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の現状や実施した行事等伝え、ご意見をいただきサービス向上に活かしている。	利用者、民生委員、自治会長、地域包括職員が委員で定期開催している。事業所からの利用者情報やレク活動などの報告の後、委員より地域サロンの開催案内などの地域情報や事業所のコロナ対策への問いかけがあるなど双方向の会議となっている。長年家族の参加が途絶えている事が課題となっている。4月以降はコロナの影響で一部委員とメールで情報交換している。	家族アンケートで「運営推進会議への案内があれば出来るだけ参加する」との回答も多くあることから、毎回全家族に案内を出したり、面会の際にも参加を呼びかけるなどの積極的な行動に期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点等あれば市役所に確認を取っている。	介護度の変更などの届け出に役所へ出かけた際には情報交換を行っている。地域包括は運営推進会議の委員でもあり、日頃から地域ケア会議の案内や、地域の高齢者情報の提供を得るなど、情報交換をし協力関係を築くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三ヶ月に一度身体拘束適正化委員会を開催し、拘束が疑われるケアがなかったか等意見を出し、拘束を行わないよう徹底している。単独外出防止の為玄関・ユニット入口は施錠している。	ベッドから降りる際や、杖を取ろうとしての転倒など自室での事故が発生しており、センサーの感知角度の改善やセンサーマットへの置き換え、杖の置き場所の改善などでリスクを減らし、身体拘束の無いケアに努めている。毎月のミーティングでも事故を事例として取り上げ再発防止に努めている。外出志向者が多くなっており、積極的に声をかけ、傾聴する姿勢で臨み不安解消に努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	三ヶ月に一度高齢者虐待防止委員会を開催している。疑わしいケアがなかったか話し合いの機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価（スミレユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方はおらず、学ぶ機会もない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際はご家族様にきちんと説明を行い、ご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年二回の家族会で意見・要望を伺い、改善に向け取り組んでいる。	電話連絡や家族面会時、年2回の家族会などでは利用者の日常の暮らし振りを伝えるなど、意見や要望を聞きだす切っ掛け作りに努めている。更に毎月広報誌（そよ風だより）と個人別の利用報告書は職員が日頃の様子を手書きし、写真を添付して送り、家族との連携に役立っている。最近ではコロナ禍で半年以上面会できず、ラインでのビデオ通話を家族からの要望で取り入れ、予約制で実施しており利用者・家族双方より喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回の会議や業務内で意見や提案を聞き反映できている。	グループホームのミーティングではケアの見直しを中心であるが、業務改善の意見提案も行われている。管理者、ケアマネージャーも現場にいる事が多く、職員の気づきや提案に迅速に対応している。最近の提案では清掃時のクリーナーのコードに利用者が引っかかる懸念から、コードレスクリーナーに取り換えたなどの反映事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時等の面談や勤務中の意見をすくい、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規入職者にはOJT研修を実施している。また、今期はコロナの影響で行えていないが社内・外の研修にも定期的に参加し、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内のグループホーム協議会で相互訪問や意見交換を行い、サービス向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (スミレユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・ご家族様・ケアマネの意見や要望を伺い、過ごしやすい環境を整えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から困りごと等伺い、グループホームで安心して過ごせるよう環境整備し、ご家族様にも協力を仰いでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族様にグループホームでの生活の流れを説明し都度要望に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の能力に合わせて出来ることはやってもらい、出来ないことはスタッフと一緒にしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を電話や手紙で伝え、情報共有し、時には協力を仰ぎ共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・ご家族様と相談し、希望があれば関係を続けていけるよう支援している。	家族以外では偶に親戚が来たり、利用開始前の施設の職員が様子を見に来る程度で知人友人が訪ねてくるケースなどは稀であるが、訪問があれば居室で茶菓の接待などして、再来訪をお願いしている。馴染みの人や場所などの希望などは聞かれないが、家族と馴染みの美容院に行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格を考慮し、座席やレクの内容等工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	来所されるご家族様もいるが、ほとんど関係は続かない。		

自己	外部	項目	自己評価 (スマレユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞いたり、言動や性格からも意向の把握に努めている。	全員が言葉での意思表示が可能で、日頃の会話の中からも汲み取るように努めているが、時には思いや意向を言葉として発し難い場合もある。「何をしたいのか、して欲しいのか」などを理念(楽しい・嬉しい・ほっとする)に照らして職員が察して二者択一などで提案することもあり、意向の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族様・ケアマネから情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々コミュニケーションをとり、一人一人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・スタッフから意見を聞き、現状必要となるケアをご家族様にも相談し作成している。	見直しは原則6か月毎であるが、最長36ヶ月の場合もある。個別記録や業務日誌など参考にモニタリングとアセスメントを行い短期目標の進捗と見直しを行っている。短期目標は実現出来そうな項目数点に絞り、個人別に実行すべき今月の目標をリビングのボードに張り出し、各人の取り組み状況が一目で分かり、利用者の励みになっている。サービス担当者会議でも課題を話し合い、現状に即した計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は日々入力し、申し送りノートも活用しながら共有、見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で出来ることは限られているが、本人・ご家族様と話し合いニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で開催されていないが、地域サロンでの交流を行っていた。		

自己	外部	項目	自己評価 (スミレユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様と相談し、訪問診療か家族対応受診かを選べるようにしている。	利用開始時に月2回の定期訪問診療と必要に応じて随時の診療が可能なクリニックの説明を行い、現在17名が受診している。他の1名は家族対応で従来からのかかりつけ医を受診している。訪問診療前日には事業所より直近のバイタルなどの情報を提供している。受診結果はクリニックより提供を受け家族と共有している。医療連携体制加算は近々取得予定をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療先の医師、看護師に相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の電話や訪問を通じて情報交換し努めている。そうした場合に備えての関係づくりは行っていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族様・医師と相談し意向や要望、必要なものケアの方法を話し合い支援している。	看取り指針は表明していないが、本人、家族の意向を尊重して希望に沿って対応しており、この1年で3名の看取りを行っている。看取りに不安を感じている職員も多く、研修による知識の習得と不安解消が課題となっている。体制を整え看取り加算の取得を予定している。	過去に研修の実績はあるが、継続研修は行われておらず、不安を訴えている職員もいることから早期研修の実施により体制が整備される事に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は事務所内に掲示し周知している。応急手当等の訓練は全員は行っていないが、研修に参加した職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年二回行っている。地域の方にもお願いはしているが、きちんとした体制は出来ていない。	9月(机上訓練)と1月(避難、通報)に訓練を実施している。1階はデイサービスでグループホームは2階にあり、避難は東西の外付け非常階段がメインとなっている。非常口は警報装置と連動し、自動解錠となっている。夜間想定訓練が実施されていないこと、さらに消防署立ち合い時の指摘事項や参加者の気づきや課題の記録がないこと、近隣住民の訓練への参加が得られていない事などが課題となっている。	課題となっている訓練時の記録の作成と次回訓練への活用や、夜間想定訓練の実施、近隣住民への協力要請(明文化による)の早期の実現に期待します。

自己	外部	項目	自己評価（スマレユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格に合わせて対応している。言葉遣い等フレンドリーにならないよう気を付けている。	人生の先輩として敬い、個々人の嫌がる事や、好きなことをわきまえて接することで人格の尊重に努めている。呼称は姓にさん付けで行ったり、声の大きさや声掛けのタイミング、またため口にならないよう言葉遣いにも注意している。トイレの見守り時や脱衣所などのドア開閉にはノックの励行を心がけるなど羞恥心やプライバシーを損ねない対応にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたい・やりたくない等の希望を表せるよう、問いかけ方等工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているが、レクや家事等は本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べない方は声かけしながら一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に合わせて一緒に行ったりしている。	朝食はグループホームのキッチンで職員が調理し、昼・夕食は1階で厨房専任者が調理している。食事形態はお粥や刻みにも対応している。介助者1名以外は自分で食し、職員は見守りに徹し時には食が進むように声掛けしている。テーブル拭きや食器拭き、また誕生会やお月見の団子などの行事食作りを職員と一緒に自己実現に繋げている。時には外食に出かけ食に変化を付けていたが、現在はコロナ禍で対応できていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は状態に合わせて対応している。水分は1500cc/日を目標としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをしている。状況に合わせて声かけ・介助している。		

自己	外部	項目	自己評価（スマレユニット）		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンに合わせ、トイレの声かけや状況により介助を行っている。	自立者は5名で時には少量の尿漏れはあるが見守り程度の支援をしており、他の13名はリハパン又はパッド併用で意思表示による誘導やパターン表による時間での声掛け誘導の支援をしている。夜間は個人に合わせ、ワイドや吸収量の違うパッドを使用しており睡眠優先としているが、2時間毎の巡視で起きて来た人は見守りと誘導を行っている。個人目標に体操を取り入れ、現状維持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	座っている時間が長くなりがちなので、体操を行ったり希望者にはヨーグルトを購入している。水分も1500cc/日程度の摂取を目指している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の本人の意向や体調に合わせて入浴を行っている。	広い浴室には2個の個浴槽があり、1個にはコーナーにも手摺りがついており、浴槽の出入りに支援を要する人が優先利用している。毎日午後の入浴を支援しており、2名同時に入浴出来ることから、仲よし同士一緒に入浴する利用者もいる。体調や気分でも入浴日を自由に選択出来るが、清潔保持のため最低週2日以上の入浴に配慮している。菖蒲や柚子などの季節湯で楽しみを提供している。本音が聴ける貴重な場にもなっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も横になる時間を設けたり、夜間も眠くなるまでテレビをみたりと本人のペースで過ごしていただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「服やっくん」を導入し誤薬防止に努めている。薬情も個人ごとにファイリングいつでも確認でき、医師・薬剤師に相談できる環境が整っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力を考慮し家事やレク等行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出は出来ていないが、天気の良い日は散歩したり外出レクとして車で出かけたりしていた。	直ぐ側を流れる奈坪川には多くの鯉が泳いでいたり、川沿いの遊歩道にはベンチがあるなどで恰好な散歩道になっており、天気の良い日には散歩している。ドライブでは桜、ポピー、彼岸花など季節の花を見に出かけている。数人がお正月の一時帰宅をしている。コロナ禍で外出が困難になり、レクレーションを増やしたりパズルや編み物などに取り組むよう勧め、気分転換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価（スマレユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いという形でお預かりし、必要なものを購入する形をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族様にも了承を得て連絡できるよう支援している。手紙は届いたら本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な空間を維持出来るよう努めている。換気を行い外気を取り入れ、カーテンを開けて窓の外の景色が見えるようにしている。	明るくて広いリビングダイニングは車椅子での移動などの動線にも配慮してテーブルや大型テレビ、ソファを配置している。季節感が感じられようススキなど季節の花を職員が持参している。壁面には職員と一緒に作った法人の文化祭の提出作品など展示して生活感が感じられる。こまめに床やテーブルなどの清掃を行い清潔を保持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は気の合う方同士になれるよう工夫し、TVの前にはソファ席を設けくつろげる空間にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていたもの、気に入ったものをお持ちいただけるようお願いしている。	全室洋間でクローゼットと室内の壁際には作りつけの棚があり、ベッドはレンタルと持ち込みが選べるようになっている。テレビや、仏壇、位牌、家族の写真など思い思いの品を持ち込んでいるが総じてシンプルな部屋になっている。整理整頓、清掃は職員が担当しているが時には手伝う利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や障害物がないようにし、自由に過ごせるよう工夫している。		